



○種のまき方

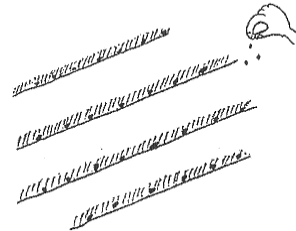
種をまくには直まきと箱まきがありますが、移植を嫌うもの(種の袋に「直まき」と書いてあるもの)以外は箱まきにして育苗してから植えつけるのが一般的です。箱まきの場合、種をまく容器は、下から余分な水分が出るものであれば何でもよいです。(プランター、ポット、プラスチックのトレーにネットを敷いたものなど)

土は、市販の「プランターの土・培養土」を使うと簡単です。

まき床に水をたっぷりかけてから、そこに種まきをします。

<条(すじ)まき>

まき床に板や棒などで浅い溝をつくり、指でねじり落とすようにしてまきます。



<ばらまき>

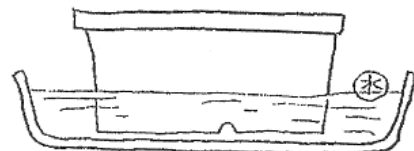
古いハガキなどを折ってその上に種を乗せ、紙を指でトントンとたたきながら全体にばらまきます。



覆土(種にかける土)は、種の大きさの3倍の厚さです。ただし、好光性の種(アゲラタム、インパチェンス、金魚草、ハナタバコ、ペゴニア、ペチュニア、ナデシコなど)は薄めに覆土し、反対に嫌光性の種(金せん花、日々草、ニゲラ、ネモフィラ、百日草、花菱草、ルピナスなど)は厚めに覆土します。

種まき後は、種に影響を与えないようになるべく目の細かいジョロなどでやさしく水をやります。また、まき床の下から水を吸わせてもよいです。

発芽するまでは、乾燥に気をつけます。



○ポット上げ

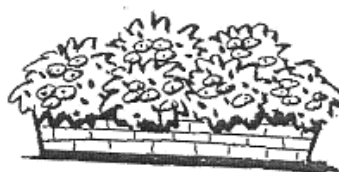
葉が4枚くらい出そろったら、ポット(7.5センチ)に植えます。用土は肥料分を含むものを使用します。幼苗をまき床から根を切らないようにやさしく掘り取り、ポットへ植えつけます。



根は傷つけないように！

○植えつけ(定植)

ポットの底から根が見えてきたら、プランターか庭に植えつけます。



○植えつけ後の管理

花に直接水がかからないように水をやります。

花をできるだけ多く、見事に咲かせたい場合は花ガラ摘みをしますが、種を採るためには、通常、花が咲いてから種が実るまでには1～3ヶ月必要なので、花ガラは摘まない方がよいです。

種を確実に採りたい場合、柔らかい筆か綿棒などでオシベ(花粉)とメシベを交互に触ってやると受精しやすくなります。さらに、違う花の花粉を付けた方が効果は高くなります。



○種採り

普通、種は花ガラごと収穫し、紙袋などに入れて日陰か室内で充分乾燥させます。乾燥後、種とサヤ、花びらなどを分け、種だけを紙袋に入れて保存します。

